

CI インサイトレポート

－ IBD 2020 －

【 目次見本 】

§ レポート全体概要

調査対象疾患	IBD（クローン病・潰瘍性大腸炎）	
調査ポイント	Bio （生物学的製剤）	<ul style="list-style-type: none">➤ 既存薬の処方状況・製品評価を薬剤別に分析・検証！➤ IL-23等の新規薬剤のポテンシャルを検証！ ⇒ 薬剤別ポジショニングをCD、UC別に徹底予測！ （TNF/non TNF・・・疾患別中心になるBioは？）
	JAK阻害薬	<ul style="list-style-type: none">➤ ゼルヤンツの処方状況・製品評価を分析・検証！➤ 新規 JAK1阻害薬のポテンシャル・ポジショニングを検証！ ⇒ JAK阻害薬の今後のポジショニングをCD、UC別に徹底予測！ （JAK1の参入によりJAK全体のポジショニングに変化は？）
	薬剤選択の 将来動向	<p><Bio、JAK等の新規薬剤の処方動向予測を踏まえた上で></p> <ul style="list-style-type: none">➤ <u>今後の治療パラダイムシフトをCD、UC別に徹底予測！</u> （経口剤・Bio/JAKの処方動向の変化は？）

■ 調査対象薬剤

既存薬	Bio (注射剤)	新規	TNF	レミケード、インフリキマブ [®] BS ヒュミラ
			TNF	シンボニー（ゴリムマブ [®] ）
			α4β7インテグリン	エンタイビオ（ハクトリス [®] マブ [®] ）
			IL-12/23p40	ステラーラ（ウスティマブ [®] ）
	経口剤		JAK阻害薬	[Pan-JAK] ゼルヤンツ（トファシチニブ [®] ）
新規薬剤 (開発薬)	Bio（注射剤）		TNF	アダリムマブ [®] BS
			IL-23p19	グセルクマブ（トレムフィア） リサンキズマブ（スキリージ） mirikizumab
			IL-36	Spesolimab
	経口剤		JAK阻害薬	[JAK1] ウパダシチニブ [®] （リンヴォック） フィルゴチニブ [®]
			α4インテグリン阻害剤	AJM300 加テケラストメチル
			TYK2阻害薬	BMS-986165
			S1P1アゴニスト 免疫調整薬	RPC1063 Ozanimod
			ステロイド	ブデソニド経口 FE999315

§ レポートPart別概要

調査種類	Part I データ分析編	Part II 定量調査編	Part III K O Lヒアリング編
調査手法	(オープンソースを基にした) データ分析	インターネットによるWEB調査	デプスインタビュー
調査対象医師/ 対象医師数	—	IBD患者を診療している医師 計 205名 (全てBio User) ＜内 対象薬剤治験参加医 65名＞	IBD TOP KOL 3名 ＜関連学会 役員・委員＞
調査対象診療科 ＜施設種類＞		消化器内科、一般・総合内科、消化器外科 ＜HP/GP＞	消化器内科 ＜HP＞
調査内容	<p>＜既存薬＞ プロフィール、作用機序・特性、 薬価、販売高推移、臨床試験、 関連論文</p> <p>＜開発薬＞ プロフィール、作用機序・特性、 臨床試験、関連文献</p> <p>＜その他＞ 注目企業動向、学会情報</p> <p>＜別添＞ 抄録集（関連論文）</p>	<p>＜既存薬＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 薬剤別処方状況 ● Bio/JAKの薬剤別処方状況（段階別） ● Bio/JAKの薬剤別製品評価 ● ゼルヤンツの非処方状況と今後の処方予定 <p>＜新規薬剤（開発薬）＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 薬剤別認知状況 ● 薬剤別処方意向・期待度 ● 临床上でのポジショニング予測 <p>＜新規薬剤参入後の薬剤処方動向＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ● CDにおけるJAKの処方動向予測 ● Bio/JAKの処方数増加率予測 ● Bio/JAKの薬剤別処方動向予測 ● Bio/JAK：1stで処方数増加が見込まれる 薬剤 <p>等</p> <p>※項目全般においてCD/UC別に分析</p>	<p>＜既存薬＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Bio/JAKの薬剤別処方状況 ● 新規Bioの処方状況・製品評価 ● ゼルヤンツの処方状況・製品評価＊ ● BSの処方状況 <p>＜新規薬剤（開発薬）＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 薬剤別評価/治療薬としてのポテンシャル ● 临床上でのポジショニング予測 <p>＜新規薬剤参入後の薬剤処方動向＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ● CDにおけるJAKの処方動向予測＊ ● Bio/JAKの市場動向予測＊ ● 剤型別（経口/Bio）薬剤選択動向予測＊ ● 重症度別パラダイムシフト予測＊ <p>等</p> <p>※項目全般においてCD/UC別に分析・検証 ＊の項目は、国内全体の将来動向についての 検証/予測を含む</p>
調査実施時期	2020年7月～8月		
体裁／頁数	Part I・・・PPT（or EXCEL）、Part II & III・・・PPT / A4 計約400ページ（報告書本編のみ、別添は含まない）		
レポート価格	レポート本編 ※オプション	フルセット＜3パート＞ ロウデータ ロウデータ＋ターゲットマッチング	180万円（税別） 60万円（税別） 70万円（税別） ＊Part別販売 可

< Part I データ分析編 目 次 >

調査概要	3	Ⅲ. 関連企業動向	55
I. 既存品	4		
I-1. プロファイル	5	Ⅳ. 学会情報	63
I-2. 作用機序・特性	12	Ⅳ-1. 日本消化器病学会	64
I-3. 薬価	24	Ⅳ-2. 日本炎症性腸疾患学会	71
I-4. 販売高推移	32	Ⅳ-3. 日本消化器関連学会週間	75
I-5. 臨床試験 (UMIN)	33	Ⅳ-4. 日本消化管学会総会学術集会	86
I-6. 臨床試験 (JAPIC)	40	V. 関連文献	87
Ⅱ. 開発品	41	V-1-1. 既存品・製品別	88
Ⅱ-1. プロファイル	42	V-1-2. 既存品・複数	102
Ⅱ-2. 作用機序・特性	48	V-2. 開発品	109
Ⅱ-3. 臨床試験 (JAPIC)	52	V-3. 既存品+開発品	113

< Part II 定量調査 要約編 目次 >

調査概要	3
回答者プロフィール	4
§.Executive Summary	5
§.Summary	13
1.クローン病・潰瘍性大腸炎の診療状況	14
2.既存薬の処方状況	16
3.生物学的製剤/JAK阻害薬の処方状況	33
4.開発薬の認知状況・処方意向・期待内容	46
5.JAK阻害薬の今後の処方動向	64
6.生物学的製剤/JAK阻害薬の今後の処方動向	68
7.新薬開発に対する要望	88

< Part II 定量調査 結果編 目次 >

調査概要	3	4) 開発薬の認知状況・処方意向・期待内容	52
回答者プロフィール	4	4-1.薬剤別治験参加状況	53
§ 調査結果	5	4-2.薬剤別認知状況	54
1) クローン病・潰瘍性大腸炎の診療状況	6	4-3.薬剤別処方意向・期待度	63
1-1.診療患者数	7	4-4.薬剤別期待ポイント	84
1-2.治療実施状況・重症度別患者割合	8	5) JAK阻害薬の今後の処方動向	110
2) 既存薬の処方状況	11	5-1.クローン病における処方意向	111
2-1.薬剤別処方状況	12	5-2.クローン病における処方対象・処方パターン	112
2-2.生物学的製剤の処方状況	24	5-3.潰瘍性大腸炎における処方動向	113
2-3.JAK阻害薬の非処方状況	36	6) 生物学的製剤/JAK阻害薬の今後の処方動向	115
3) 生物学的製剤/JAK阻害薬の処方状況	38	6-1.処方数増加が見込まれる重症度・増加率	116
3-1.最近6ヶ月間の処方開始状況	39	6-2.処方数増加が見込まれる薬剤	120
3-2.処方段階別薬剤処方状況	41	6-3.临床上で必要な薬剤	128
3-3.製品評価	44	6-4.1stで処方数増加が見込まれる薬剤	131
		7) 新薬開発に対する要望	136

< Part Ⅲ K O Lヒアリング編 目次 >

調査概要	3
Summary	6
1. Bio/JAKの処方状況	16
2. 新規Bioの処方状況・製品評価	19
3. JAK阻害薬 ゼルヤンツの処方状況・製品評価	22
4. BSの処方状況	24
5. 今後のBio/JAKの処方動向予測	26
6. 新規薬剤(開発薬)の評価	29
7. 今後のBio/JAK市場動向予測	34
8. 今後の剤型別薬剤選択動向予測	36
9. 新薬開発に対する要望	38